

雑 報

人 事 の 異 動

(昭和50年7月～9月)

〈発令年月日〉	〈異 動 事 項〉	〈官職・氏名〉
昭 50. 9. 20	庶務課主任（児童家庭局母子衛生課より配置がえ）	厚生事務官 野 口 房 章

定 例 研 究 報 告 会 の 開 催

(昭和50年7月～9月)

〈回〉	〈年月日〉	〈報 告 題 名〉	〈報 告 者〉
11	昭50. 7. 2	幼児の育成環境について——東京都における幼児の交通事故に関する二つの検討……………	廣島 清志 技官
12	昭50. 7. 9	昭和50年度実地調査「ライフ・サイクルに関する人口的調査」実施報告……………	中野 英子 技官
	〃	「第7次出産力調査」について……………	青木 尚雄 技官
	〃	将来労働力人口推計……………	岡崎 陽一 技官 山本千鶴子技官
13	昭50. 9. 10	職業小分類による女子就業者の特性……………	濱 英彦 技官
14	昭50. 9. 17	離島における人口変動と「過疎化過程」……………	山本千鶴子技官 柴田 弘捷 技官

資 料 の 刊 行

(昭和50年7月～9月)

〈資料題目(発行年月日)〉	〈担当・協力者〉
○「研究資料」第211号(昭50. 7. 31)	
労働力人口の将来推計—全国男女年齢別, 昭和50～60年— 昭和50年7月推計……………	岡崎 陽一 技官 山本千鶴子技官
○人口問題についてのおもな数字 第25号(昭和50年9月版)……………	金子 武治 技官

第 2 回 日 本 人 口 会 議

「世界人口年」に当る昨年, 第1回日本人口会議が開かれたあと, これからも毎年「人口会議」を継続したらどうかという意見が内外に起こり, 標記第2回会議が, 本50年も9月25(木)・26(金)の両日にまたがり, 東京・千代田区の都市センターホールにおいて開催された。主催団体, 会議役員等については, 第1回に準じているので重複を避ける(詳細は本誌132号, 昭和49年10月, 資料欄を参照のこと)が, 第1回が静止人口をめぐる総合的討論を主軸としていたのに対し, 今回は人口問題をより各論的に掘り下げる皮切りとして,

「人口と食糧の将来展望」に焦点をしばっているのが特色である。

会議初日は、田中正己厚生大臣、安倍晋太郎農林大臣らの来賓を迎えての開会式にはじまり、大来佐武郎大会議長が『日本の進路と人口問題』と題する基調講演で、「人口と食糧のシーソー・ゲームの時期において、人口政策におけるわが国の知識と経験と資金力をアジアの人口の安定化に役立てる」役割を力説し、午後はそれを受けて、鈴木健二氏を司会役とし、5名の問題提起者、5名の専門家によるシンポジウム『日本の未来を見つめる——人口と食糧の接点』において、人口増加と食糧生産、南北問題、日本の食糧自給率、個人と全体の問題など、活発な討論が行なわれた。

第2日は、ラファエル・サラス国連人口活動基金事務総長が『激増する世界人口に食糧を——農業開発と人口増加』と題する特別講演で、「相互依存の世界における、人口の安全と福祉を確保するための、人口・食糧・社会の総合開発と国際協力」を呼びかけた。

これらの発言や討論は、午後の大会宣言（後述）に結実したが、つづいて山崎朋子氏の講演『底辺でいきな女性たちのこと』および国連広報センター提供の映画上映のあと、幕を閉じた。

大会宣言の内容は、1.食糧自給度向上にできる限りの努力をつくすこと、2.人口増加抑制に努力すること、3.国際協力が必要であること、4.「ほどほどの哲学」を持つこと、の4点を骨子とするものであるが、経済低成長時代における足を知る国民的節度の提唱が注目をよんだ。

なお、この会議を機会に発行された第2回日本人口会議資料専門委員会編「バランスの崩壊はいつ来るか——人口と食糧の行方」（昭和50年9月）は、人口と食糧に関する基礎統計を解説つきで要領よくまとめたハンドブックで、簡便な資料集としての意義を失なわない。
(青木尚雄記)

第13回太平洋学術会議

第13回太平洋学術会議 (Thirteenth Pacific Science Congress of the Pacific Science Association) は、カナダのバンクーバーに在る University of British Columbia において、1975年8月13日(水)から30日(土)までにわたって開催され、本研究所黒田俊夫所長がこれに参加した。

今回の中心テーマは“Mankind's Future in the Pacific”であった。人口部門も4日間(19日~22日)にわたる sessions を持つ大規模なものであり、“Pacific Populations and Their Implications for Scientific Research”の主題の下に広範な人口 session があった。黒田は、20日に“Structural Change of Internal Migration and Demographic, Socio-economic Effects on Regional Population in Japan”を報告し、21日にはシンポジウムCの Implications and Controls of Population Growth のChairman をつとめた。

参考までに、Population Session Program を掲げると次のとおりである。

8月19日(火)

Theme Symposium A : The Population Growth and Its Impact on the Pacific Rim (Chairman : Sydney Goldstein)

A-1 Demographic Trends in the Pacific Countries

A-2 Population Growth, Fertility and Projections

8月20日(水)

Theme Symposium B : Internal Migration and Urbanization (Chairman : Mercedes Concepcion)

B-1 Internal Migration and Urbanization

B-2 Population Movement : Emigration and Immigration

8月21日(木)

Theme Symposium C: Implications and Controls of Population Growth (Chairman : Toshio Kuroda)

C-1 Population Policy and Family Planning Programs

C-2 Marriage and Childbearing